

## 会議録

会議の名称	令和5年度第1回野洲市総合計画審議会
開催日時	令和5年5月25日(木) 10:00~11:45
開催場所	野洲市役所 本館2階 第5会議室

### 【出席者の氏名等】

- ・野洲市総合計画審議会委員 (◎:会長 ○:副会長) ※順不同  
◎新川達郎委員、○田中勝也委員、北村真治委員、林かずみ委員、北野好樹委員、恩地衛委員、欠席1名(田中悦子委員)
- ・事務局(市)  
佐野副市長、布施政策調整部長、小池政策調整部次長  
[企画調整課] 玉川課長、中野課長補佐、中江専門員
- ・傍聴者 1名

## 1. 開会

- (1) 挨拶 佐野副市長より開会にあたり挨拶。
- (2) 委員紹介【資料1】 委員名簿の順に紹介。
- (3) 会長・副会長の選出について【資料2】  
→会長に新川達郎委員、副会長に田中勝也委員が選出され、就任いただいた。
- (4) 第2次野洲市総合計画改訂に係る諮問について  
→第2次野洲市総合計画の改訂にあたり、野洲市総合計画審議会条例第2条の規定に基づき、野洲市総合計画審議会(新川会長)へ諮問。

## 2. 議事

### 第2次野洲市総合計画の改訂について【資料3】

【説明】事務局より、資料3をもとに第2次野洲市総合計画の改訂について、以下のとおり主旨・概要を説明した。

- (1) 改訂理由  
野洲市民病院の新たな整備場所が野洲市総合体育館東側市有地に決定したことに合わせ、第2次野洲市総合計画・野洲市都市計画マスタープラン・野洲市立地適正化計画における土地利用の内容について一部見直すべきとしたため。
- (2) 土地利用に係る見直しの検討箇所  
第2次野洲市総合計画における土地利用の内容に関し、該当するページと項目のほか、特に関連する内容を説明。
- (3) 土地利用に係る見直しの考え方  
今回の見直しの考え方としては、①多極ネットワーク型コンパクトシティの考え方を基本とすること、②野洲市民病院の整備場所の決定に合わせ、新たな拠点を示すこと、③第2次野洲市総合計画に即すこととなる野洲市都市計画マスタープラン、野洲市立地適正化計画と一体的に改訂を進めること の3点とする。

(4) 新たな拠点について

土地利用に係る見直しの考え方②により、土地利用構想図で野洲市総合体育館付近を新たな拠点案の位置として示す。さらに既存の拠点と今回の新たな拠点案について、位置付けや内容について説明。

(5) 改訂スケジュール

第2次野洲市総合計画の改訂スケジュールは、野洲市都市計画マスタープラン及び野洲市立地適正化計画と調整を図ることから、それぞれの見直し作業が連動して行う工程とする。令和5年度末にはそれらが揃って改訂されるよう進めていくことを説明。

【質疑応答等】

委員：計画は大変夢のある話であるが、財政の状況について触れられていない。特に病院整備ではどれくらいかかって、どうやって回収していくのか。

市側：病院事業については、過度な財政負担とならないよう病院事業債を使って平準化していく。市政に大きな影響を与えないよう進めている。

委員：病院事業債を償還する財源はどのようになっているのか。

市側：半分は一般会計からの負担となるが、その半分は国からの交付税措置がある。

委員：北部合同庁舎付近と総合体育館付近それぞれの地域拠点にはどのような機能のものを造るのか、またそのコストの試算はしているのか。

市側：総合計画は大きな方向性を示すものであり、具体的なハコモノを造るための計画ではない。

委員：懸念していることであるが、介護の受け皿をどう考えているのか。「福祉」という機能を設けるなら高齢者とその高齢者を見守る人たちのことをもっと考えてもらいたい。(意見)

委員：北部合同庁舎付近の地域拠点は具体的な案や計画はあるのか。ここは昔からの世帯と新しい世帯が混在しているため、自治会としてのまちづくりに苦悩している。市としてめざしている方向があれば教えてほしい。

市側：北部合同庁舎付近の地域拠点については、人口密度は一定維持されると見込んでいる。道路整備等も予定されており、地域住民の生活を維持していき、更なる発展を見込む地域と考えている。

委員：これから変わっていく、というのがはっきり見えるようにしてほしい。

委員：既存の拠点には「住居」の記載があるが、新たな拠点には自然環境をどう捉えていくのか、という視点も入れてはどうか。世界農業遺産に認定されたびわこシステムにも触れてみてはどうか。(意見)

委員：今回の改訂で、多極ネットワーク型コンパクトシティに触れているが、生態系については触れていない。野洲の魅力は、琵琶湖、三上山といった自然環境に触れる必要があるのではないかと。以前の審議会での議論では、駅前のにぎわい創出の核として「病院」があった。それが別の場所に移るのであれば更なる議論が必要と思われ、拙速に感じるため、丁寧な議論が求められる。また通常多極ネットワークは数十万人規模の人口で考えるが、人口5万人の野洲市で考えるのは少しスケールの小さく感じるところではある。

市側：駅前の拠点については、野洲駅南口周辺整備構想に基づき、現在、別の場で議論しているところである。

委員：生態系の話に関連して、高専整備場所も自然が多くある。自然を大事にする視点が必要である。(意見)

委員：資料3の9ページにある考え方①の説明の中に「公共交通網を充実させる」とあるが、市の「おのりやす」は充実しているのかどうか。隣の近江八幡市は病院が郊外に移り、「あかこんバス」が充実してアクセスが良い。

市側：公共交通の機能強化は必要と考えている。今後、みなさんに助言いただきながら、現在市内でJR西日本が実証実験を進めているBRT等も視野に入れ検討し、野洲市版コンパクトシティを築いていきたい。

委員：野洲市に住みたくない理由として、「交通の不便さ」があったと思う。車がないと駅も病院もいけない。交通を充実させないと計画は夢物語になる。スピード感が感じられる具体的な案を聞かせてほしい。(意見)

委員：公共交通の充実が県全体の課題である。県では今年、交通ビジョンを策定する予定であり、野洲市とも連携していきたい。

市側：公共交通については、別の会議でも議論しており、検討を重ねていきたい。

委員：「地球温暖化の対策を講じているまち」にしてほしい。(意見)

委員：野洲市は住むには良いところ。京都や大阪にもすぐ行ける。でも駅前に飲食店などがなく、くつろげる場所がほしい。

市側：ご意見はまさに市の課題である。駅前整備については、広報6月号にも掲載するが、市民の声を聞かせてもらうためアンケートを実施する。ぜひみなさんも回答をお願いします。

【まとめ】 今回の審議会における主な意見集約は次のとおり。

- ①具体的な事業を進めるにあたって財政面もしっかりと踏まえること
- ②人口動態にあわせ福祉的な拠点のあり方をどう考えるか
- ③3つの拠点の都市機能をどう考えていくか、拠点間のネットワークの構築の課題
- ④これからの市の方向性のほか、生態系や地球温暖化などの視点（SDGs）への貢献も踏まえて、新たな拠点をどう位置付けるか

### 3. その他

次回の野洲市総合計画審議会を令和5年8月に予定していることから、別途日程調整することを事務局から依頼した。

以上

#### 【提出された資料】

- ・資料1 野洲市総合計画審議会委員名簿（次第裏面）
- ・資料2 野洲市総合計画審議会条例及び施行規則
- ・資料3 令和5年度 第1回 野洲市総合計画審議会（冊子）
- ・当日追加資料 野洲市総合体育館付近の現況